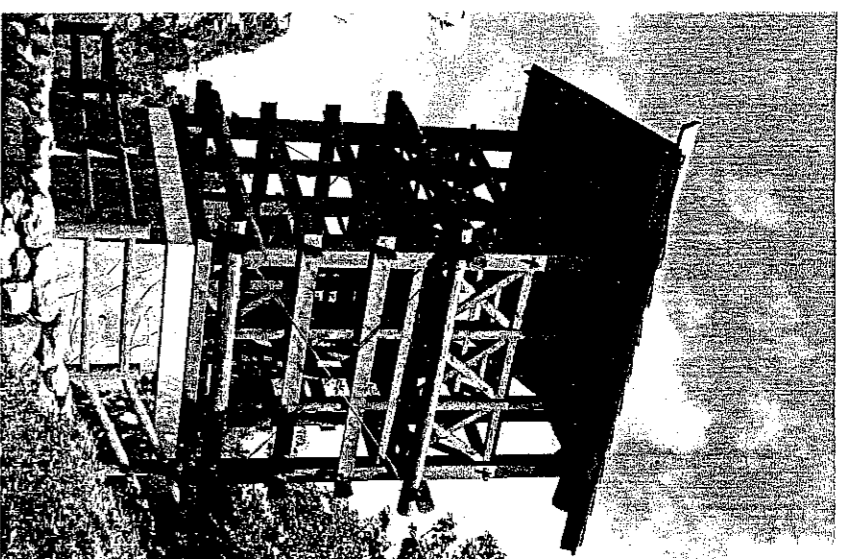


### 物見櫓

＝小斎振興協議会＝



次の文献は、物見櫓の前面に掲示しています。

ここは小斎城です。皆さんの目の前に広がる伊具盆地を阿武隈川が横切って流れています。伊具は今から四百年以上も昔 戦国時代の終わり頃、伊達と相馬が境界を争う激戦を繰り広げたところです。丸森町には、皆さんが立っているここ小斎城のほかに、金山城、丸山城があります。伊具郡争奪戦にそれぞれ重要な意味があった三つの城をご紹介します。

### 戦の始まり

伊具郡は、最初伊達領でした。息子晴宗との戦に敗れた伊達種宗は丸山城に隠居し、隣接する相馬領主で娘婿でもある、相馬顯胤に支えられて最晩年の十七年を送りました。永禄八（一五六五）年種宗が丸山城で亡くなると、相馬は一気に伊具郡を相馬領とします。

### 伊達による最初の伊具奪還戦

種宗と戦った息子の晴宗から一代あと、種宗の孫にあたる輝宗の時代に伊具奪還の戦が始まります。皆さんの目の前が戦の中心地です。現在田んぼの中に見える人家周辺だけがしっかりとした地面で、あとは馬も人も飲み込む深田でした。細道や橋から落ちると、首を刈られるばかりです。矢ノ目合戦と呼ばれる激闘は、相馬方が優勢、伊達が多くの犠牲を出して撤退したと、相馬の資料にあります。

**【物見櫓の概要】**

宮城県伊具郡丸森町小斎字古館17-4  
木造(偷造り)地上階数2階(最高の高さ6.462m、軒の高さ5.562m)  
7.45㎡(延～面積14.07㎡)  
96.0㎡  
平成25年6月10日～平成25年8月10日  
設計:只野良建築工房 施工:大内建築

**【埋蔵文化財確認調査】**

古館竊跡  
宮城県伊具郡丸森町小斎字古館17-4  
平成25年5月13日  
人力で表土を掘削し基礎が入る深さ60cmまで掘って、遺構の確認を行った。遺構は確認されず、竊跡に関する遺物も確認できなかった。特に工事範囲以内での遺跡とのかかわりは確認できなかった。

地造積積期行	名地日要
在構面面積	跡在年月概要
所構建敷工設計	遺所調査結果

### 再度の伊具戦 政宗初陣

天正九（一五八二）年、伊達輝宗は備を持して再度伊具攻めに臨みます。この戦は十五歳の嫡子・伊達政宗の初陣でもありました。またおそろしくこの地は、政宗の一歳年下の従兄弟、後に猛将として知られる伊達成実の初陣の地でもあります。

### 伊達の櫻 小斎城 標高約四十メートル

阿武隈川北岸には伊達方の角田城がありましたが、南岸には相馬方の小斎丸山、金山の城との間にたくさん陣があって伊達がつけ込む隙間はなかなかありませんでした。それが、天正九年（伊達側の資料では天正八年）、小斎城主佐藤宮内が相馬を裏切り、伊達方に付きまです。相馬内の権力争いで父親が憤死したところへ、伊達が内応の誘いをかけていたのでした。小斎城が伊達にいったことで、角田から阿武隈川を渡る橋頭堡ができたこととなります。以後、戦況は伊達有利に展開してゆきます。

### 祖霊の城 丸山城 標高約五十メートル

丸山城は、今でも伊達種宗の墓を抱えています。伊達、相馬双方共通の先祖であるばかりが、奥羽の大家のほとんどが種宗の血を受けています。英雄・種宗の墓を美子晴宗ではなく、娘婿・相馬顯胤とその子供らが守る状態は、伊達には不利です。丸山城奪還は、軍事的な要衝、領土拡張といった面のほか、祖霊奪還の要素があったかもしれません。丸山城がいづ伊達に落ちたのかは、正確にはわかりませんが、戦が和議によって終結する天正十二（一五八四）年には伊達のもので確定します。

### 不落の城 金山城 標高約百二十メートル

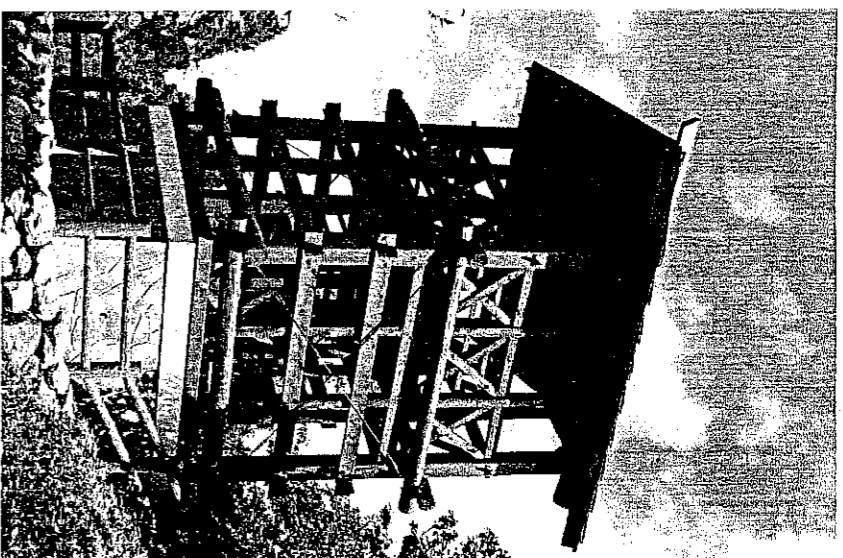
三つの中で一番高く、規模も大きい金山城は、種宗没後に相馬が伊具に築いた城です。現在でも城の遺構がよく保たれています。相馬方資料によれば、金山が難攻であることを見た伊達家臣遠藤基信が、金山を直接攻撃する代わりに、相馬本領との連絡を絶つて弱らさせることを提案したとされます。伊達側には、細かな攻防の資料はありませんが、金山城は最後は天正十二年の伊達・相馬の和議の中で伊達方に引き渡されます。

この時伊達のものとなった金山城は、以後相馬に対して難攻不落の城であり続けました。江戸時代に入ると金山要害と名を襲え、明治になると、不落のままにその役目を終えました。

文献「独眼豊政宗」作者・千葉豊弓氏 平成二十五年十月作

### 物見櫓

＝小斎振興協議会＝



次の文献は、物見櫓の前面に掲示しています。

**【物見櫓の概要】**

宮城県伊具郡丸森町小斎字古館17-4  
木造(増造り)地上階数2階(最高の高さ6.462m、軒の高さ5.562m)  
7.45㎡(延べ面積14.07㎡)  
95.0㎡  
平成25年6月10日～平成25年8月10日  
設計:只野良建築工房 施工:大内建築

**【埋蔵文化財確認調査】**

古館築跡  
宮城県伊具郡丸森町小斎字古館17-4  
平成25年5月13日  
人力で表土を掘削し基礎が入る深さ60cmまで掘って、遺構の確認を行った。遺構は確認されず、築跡に関する遺物も確認できなかった。特に工事範囲以内での遺跡との遺跡とののかかわりは確認できなかった。

地造積積期行	名地日要
在構面面積	跡在年月概
所構建敷工設計	遺所調査結果

ここは小斎城です。皆さんの目の前に広がる伊具盆地を阿武隈川が横切っています。伊具は、

今から四百年以上も昔、戦国時代の終わり頃、伊達と相馬が境界を争う激戦を繰り広げたところです。

丸森町には、皆さんが立っているここ小斎城のほかに、金山城、丸山城があります。伊具郡争奪

戦にそれぞれ重要な意味があった三つの城をご紹介します。

### 戦の始まり

伊具郡は、最初伊達領でした。息子晴宗との戦に敗れた伊達種宗は丸山城に隠居し、隣接する相馬領

主で娘婿でもある、相馬顯胤に支えられて最晩年の十七年を送りました。永禄八(一五六五)年種宗が

丸山城で亡くなるまで、相馬は一気に伊具郡を相馬領とします。

### 伊達による最初の伊具奪還戦

種宗と戦った息子の晴宗から一代あと、種宗の孫にあたる輝宗の時代に伊具奪還の戦が始まります。

皆さんの目の前が戦の中心地です。現在田んぼの中に見える人家周辺だけがしっかりとした地面で、あと

は馬も人も飲み込めぬ深田でした。細道や橋から落ちると、首を知られるばかりです。矢ノ目合戦と呼ば

れる激闘は、相馬方が優勢、伊達が多くの犠牲を出して撤退したと、相馬の資料にあります。

### 再度の伊具戦 政宗初陣

天正九(一五八二)年、伊達輝宗は嫡子として再度伊具攻めに臨みます。この戦は十五歳の嫡子・伊

達政宗の初陣でもありました。またおそろしくこの地は、政宗の一歳年下の従兄弟、後に猛将として知ら

れる伊達成実の初陣の地でもあります。

### 伊達の櫻 小斎城 標高約四十メートル

阿武隈川北岸には伊達方の角田城がありますが、南岸には相馬方の小斎丸山、金山の城との間

にたくさん陣があって伊達がつけ込め隙間はなかなかありませんでした。

それが、天正九年(伊達側の資料では天正八年)、小斎城主佐藤宮内が相馬を襲切り、伊達方に付きま

す。相馬内の権力争いで父親が憤死したところへ、伊達が内応の誘いをかけていたのでした。小斎城が

伊達についたことで、角田から阿武隈川を渡る橋頭堡ができたこととなります。以後、戦況は伊達有利

に展開してゆきます。

伊達が相馬領伊具に打ち込んだ最初の櫻が小斎城です。

### 祖霊の城 丸山城 標高約五十メートル

丸山城は、今でも伊達種宗の墓を抱えています。伊達、相馬双方共通の先祖であるばかりか、奥羽の

大家のほとんどが種宗の墓を実子晴宗でなく、娘婿・相馬顯胤とそ

の子供らを守る状態は、伊達には不利です。丸山城奪還は、軍事的な要衝、領土拡張といった面のほか、

祖霊奪還の要素があったかもしれません。

丸山城がいっ伊達に落ちたのかは、正確にはわかりませんが、戦が和議によって終結する天正十一(一

五八四)年には伊達のもので確定します。

### 不落の城 金山城 標高約百二十メートル

三つの中で一番高く、規模も大きい金山城は、種宗没後に相馬が伊具に築いた城です。現在でも城の

遺構がよく保たれています。相馬方資料によれば、金山が難攻であることを見た伊達家臣遠藤甚善信が、

金山を直接攻撃する代わりに、相馬本領との連絡を絶つて弱らさせることを提案したとされます。伊達

側には、細かな攻防の資料はありませんが、金山城は最後は天正十二年の伊達・相馬の和議の中で伊達

方に引き渡されます。

この時伊達のものとなった金山城は、以後相馬に対して難攻不落の城であり続けました。江戸時代に

入ると金山要害と名を変え、明治になると、不落のままにその役目を終えました。

文献「独眼竜政宗」作者・千葉真弓氏 平成二十五年十月作